

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

医療的ケア看護師配置事業

事業の経過・背景・課題

様々な教育的ニーズへの対応、学びを保障するための支援や対応が学校に求められている中、市立小学校及び幼稚園に在籍する医療的ケアを必要とする児童・園児が安心・安全な学校（園）生活が送れるよう、看護師を配置する必要がある。

取組内容

交付実績額： 3,189 千円

- ・医療的ケアを必要とする児童・園児が在籍する学校（園）に対し、看護師を配置
- ・配置学校等に医療的ケア安全委員会を設置し、実施体制・内容等について協議
- ・必要に応じ、医療的ケアに係る研修及び主治医による指導等を実施



事業の成果・今後の展望等

医療的ケアを必要とする児童・園児が地域の学校に安心して在籍することができ、地域の同世代の子どもや人々の交流等を通して、地域での生活基盤を形成できるよう支援を行うことができた。また、人材派遣を活用した任用を行うことで、看護師の安定的な配置が可能となり、安心安全な学びの環境を確保することができた。

問い合わせ先

城陽市教育委員会学校教育課（0774-56-4004）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

タブレットの有効活用のためのモバイルルーター 配置事業

事業の経過・背景・課題

学校におけるＩＣＴ活用を推進するため、１人１台端末の導入を契機に校内の無線ＬＡＮを整備し、通信ネットワーク環境の安定化を図っているところであるが、無線ＬＡＮの届かない校庭や校外活動ではＩＣＴを活用できない状況であったため、令和５年度から、各小・中学校にモバイルルーターを配備し、無線ＬＡＮの届かない場所での学習活動に利用している。

取組内容

交付実績額： － 千円 ※セット新規

(※) 本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により
教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

・無線ＬＡＮの届かない場所においてもＩＣＴを活用した学習活動に取り組めるよう、各小中学校にモバイルルーターを各１台配備



事業の成果・今後の展望等

各教科等における様々な場面でＩＣＴを効果的・効率的に活用できる環境を整備することで、さらに幅広い学習活動の実践、児童生徒一人一人に応じた個別最適な学びを実現することができた。引き続き児童生徒が情報を収集、整理、比較・分析することとおして、自身の考えを形成する力の育成や論理的な思考力・表現力の向上を図る。

問い合わせ先

城陽市教育委員会学校教育課（0774-56-4004）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

介護アシストスーツ配置事業

事業の経過・背景・課題

近年インクルーシブ教育の推進に伴い、肢体不自由のある児童が地域の学校に進学するケースが増加している。こうした地域の学校で学ぶ機会が広がることは、様々な価値観に触れ、他者との社会的なつながりを形成することができる貴重な機会となる一方で、学校での日常生活（トイレ・教室移動等）の介助に係る教職員等の身体的負担が大きいことから、十分な支援体制の整備が求められている。

取組内容

交付実績額： － 千円 ※セット新規

（※）本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により
教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

生活介助に携わる学校職員の身体的負担を軽減し、児童の安心安全な学びの環境を保证するため、肢体不自由児童が在籍する小学校3校に介護アシストスーツを配備



事業の成果・今後の展望等

介助を必要とする肢体不自由児等が地域の学校に安心して在籍し、地域の同世代の子どもや人々の交流等を通して、地域での生活基盤を形成できるよう支援していく。

問い合わせ先

城陽市教育委員会学校教育課（0774-56-4004）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

タブレットの有効活用のための学校ネットワーク IPoE導入事業

事業の経過・背景・課題

令和6年度から小学校で使用される全ての教科書はQRコードにより音声・画像・映像にアクセスできる仕様となる。

これまでの学びあい等でのタブレット活用に加え、全員が同時に回線利用する場面の増加が見込まれることから、ネットワーク回線環境を早期に拡充する必要がある。

取組内容

交付実績額： 791 千円

学校ネットワークに接続する回線方式を見直す

→ 既存のPPPoE方式に加えて、IPoE方式を追加で導入

※ PPPoE方式（Point-to-Point Protocol over Ethernet）：電話回線を前提とした通信方式

※ IPoE方式（Internet Protocol over Ethernet）：イーサネットを前提とした通信方式



事業の成果・今後の展望等

IPoE方式を追加導入することで、学校のインターネット速度の帯域確保・向上を推進することができた。また、児童生徒の集中力の維持増進を図ることで個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に寄与することができた。

各教科等における様々な学習活動を通してICTを効果的・効率的に活用できる環境を整備することで、情報を習得し、整理・比較して考えを形成することができる力を育成していきたい。

問い合わせ先

城陽市教育委員会学校教育課（0774-56-4004）

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

仮想空間（メタバース）を活用した不登校支援事業

事業の経過・背景・課題

城陽市においては、スクールカウンセラー等の支援員の配置により不登校児童生徒数はやや減少傾向にあるものの、クラスに入りづらい児童生徒の割合は依然として高い傾向にある。クラスに入りづらい児童生徒等については適応指導教室で受け入れているが、適応指導教室での対応は対面が原則となり、コミュニケーションに不安がある児童生徒にとってはハードルが高い場合がある。

取組内容

交付実績額： 330 千円

I C Tを活用し、不登校の児童生徒が安心して他者と交流できる居場所づくりを実施する。

- ・インターネット上の仮想空間（メタバース）に不登校児童生徒を受け入れる教室等を設置
- ・子どもたちが自分の分身のアバターで、フロア内で交流したり、ほかの子どもたちと会話を実施
- ・プライバシーが守られた状態で支援員に相談できる場所も設置

【実施スケジュール】

令和6年3～4月：仮想空間開設準備

令和6年4月8日：児童生徒受け入れ開始



事業の成果・今後の展望等

仮想空間を活用したオンライン上の居場所づくりは、自分にあったペースで学習・生活を送ることができるようになるなど、不登校児童生徒の学びの保障につながった。

今年度は、適応指導教室に通う児童生徒を対象に実施したが、今後は、効果を検証したうえで、学校に時間外登校していたり、適応指導教室に通うことも難しい子どもたちに展開し、コミュニケーションの機会を確保するとともに、学校以外の居場所として活用していく。

問い合わせ先

城陽市教育委員会学校教育課（0774-56-4004）